

湯原元一 ゆはら げんいち 教育學者。文久三年八月十一日肥前國生れ、昭和六年十月四日歿（一八三二—一九三二）。號易水、易水學人、易水生、易水老人、聽雪學人。佐賀藩曲醫石井氏の四男、母の實家湯原を嗣ぐ。明治十一年上京、井上重實の亦樂塾に學び、十七年東京大學豫備門卒。爾後福岡、山口、宮崎、新潟等で教職、更ひ新潟縣視學官、北海道廳事務官を經て、四十年東京市立樂學校校長、大正六年東京女子高等師範學校校長、十年東京高等學校初代校長就任。教育學者としては專門書多數を著し、後進に影響を與へ、殊にヘルバルト派教育學の宣傳に努めた。またレツシングの美學論「テオエーン」を「畫趣及び詩味」（明治三十六年十一月）、「白金港堂書籍株式會社」と題して初めに撰譯紹介したことが知られる。

著書に『教育學提綱』（明治二十七年七月）、「白金港堂書籍株式會社」、『教育學教本』（明治二十二年十月）、「白金港堂書籍株式會社」、『戰時の獨逸國民』（大正五年五月五日中央教徳會）、『易水想波』（大正五年六月五日實業堂）、「白木社」、『易水想波』（湯原先生記念會編、昭和三年二月四日東京開成館）等。

『詩のゆかり』—湯原先生記念會  
 誌』（昭和二年二月四日湯原先生記念會）がゆかり。

